

## 平成 28 年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる「共同利用型」の個人による研究 研究報告書

平成 29 年 5 月 11 日現在

研究課題名	ヴィゴツキーの発達論におけるトルストイの文学作品と教育論の役割	
申請者	氏名	所属機関・職
	伊藤 美和子	神戸大学・非常勤講師

## 研究成果の概要

ロシアのヴィゴツキーの発達論と方法論は、世界の心理学、教育学にルネッサンス的転換をもたらしたと評される。本研究の目的は、そのヴィゴツキーの著作において、トルストイの文学作品と教育論がどのような役割を果たしているか、明らかにすることであった。

研究方法としては、手持ちの資料及び北海道大学所蔵図書資料を用いて、ヴィゴツキーのどの著作に、トルストイ、ドストエフスキー、プーシキン、ゴーゴリといったロシアを代表とする文学者たちの叙述がどのような文脈で登場するのか、ヴィゴツキーは、批判的か肯定的か中立的か、どのような態度で引用しているのかを分析した。その結果、以下のことが明らかになった。

- 1) 作家たちのそれぞれの作品におけるモノログかダイアログという対話形式の在り方、一つの発言の深層の意味の機能（登場人物たちがどのような意図である発話をし、受け取っているのか）が、ヴィゴツキーの心理理論の補助線としてなくてはならない役割を果たしている。
- 2) ヴィゴツキーは、既存のあらゆる心理・教育理論を吟味し、批判することで、新しい心理理論を打ち立てた。しかし、トルストイの教育論のうち文学教育、母語教育に関しては肯定的に受け止め、持論の補助線に用いている。

## 主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）

- 1、日本教育方法学会研究大会（10月）に発表予定。
- 2、ヴィゴツキー学協会研究誌『ヴィゴツキー学』別巻5号に投稿予定。

## 当該研究活動を基に応募中の研究プロジェクト（科研費等）

29 年度、科研に応募予定。

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。